

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例会) 一般質問通告書

[illegible]

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
2	(11番議員) 皆越 てる子	1 高齢者の補聴器助成について	高齢者の聴力低下は認知症のリスクだけではなく、外出や地域交流機会の減少につながる可能性がある。高齢者が社会参加を継続でき、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けることができるように、市町村によって助成額は異なるが、本町でも助成できないか問う。	町長
		2 地域食堂「おいでカフェ」について	孤独の解消や地域交流、地元の農産品を使った食育などを目的に町内の有志メンバーが立ち上げた。令和6年10月第3日曜日に第1回目を開催し、今日まで7回実施している。このような状況の中で、いろんな課題等も見えはじめ、高校生以下及び75歳以上を無料、そのほかは食事代として200円をいただいていたが、食材等の高騰により、令和7年1月より300円に値上げした。運営経費は、あさぎり町福祉協議会福祉事業助成金、ファミリーマート&むすびえ子供食堂スタート応援助成プログラム、熊本県物価高騰緊急支援補助金等も活用しているが、町としての考えを問う。	町長 教育長
3	(4番議員) 岩本 恭典	1 あさぎり町の補助・助成事業について	地方自治体の目的は、地域住民の福祉の増進と、地域の実情に即した行政サービスを提供することである。町民が日々の生活を営む上で、どのような支援を受けられるのかを知らせることは地方行政の役割であり、それが町民の暮らしの安心につながると思われる。現在、各課で行われている補助や助成制度は、それぞれに情報提供されているが、一元化されておらず、全体像が見えにくい印象を受けるが、そのことについて問う。 ① 各課の補助・助成事業の周知について ② 情報提供の格差について ③ 各課において情報の共有および連携について ④ 各制度を一元化するため「暮らしの補助・助成ガイド」のような冊子の作成について ⑤ 冊子作成についての費用対効果と継続的な更新体制について	町長
		2 あさぎり町中心市街地活性化について	長年議論されながらもなかなか進展の見られない中心市街地活性化について問う。 ① 駅前再開発構想について（現時点での進捗状況と、再開発が進まない主な要因は何だと認識しているか。） ② あさぎり駅前複合施設整備基本構想計画について ③ あさぎり町鉄道沿線活性化推進について	町長

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
4	(5番議員) 難波 文美	地方創生の現状認識とこれからの展開について	全国の地方自治体が衝撃を受けた、10年前の『消滅可能性自治体一覧』から、かろうじて除外となっている我が町ではあるが、年を追うごとに加速している少子化と人口減少の厳しい現実から目を逸らす事はできない。 第3次あさぎり町総合計画を踏まえ、今年度の施政方針に盛り込まれた様々な施策も粛々と進められていると期待するが、住民にとっては岡留公園の遊具や町のホームページリニューアルが新年度のスタートに明るい兆しとなった。その取り組みについての現状と合併当時から『町民憲章』を基軸とした未来の町の姿をどのように考えているのかを問う。 ① 過去10年間から現在までの町内人口推移について（年少・生産年齢・老年） ② 岡留公園南側東屋の現状と課題について ③ 町の公式ホームページについて ・タウンプロモーションのカテゴリー『歴史・史跡・自然』ほか内容空白のメニューについて ④ 定住自立圏構想について ・町が取り組んできた事業の成果と今後の課題 ⑤ 町が描くあさぎり町のイメージについて	町長 教育長
5	(9番議員) 豊永 喜一	1 農業振興について	あさぎり町の基幹産業である農業を取り巻く状況は厳しいものがある。今後の農政の課題として、農家の高齢化が人手不足、耕作放棄地の増加、国際競争力の激化などが挙げられる。課題を解決するためには、スマート農業の推進や農地・経営の大規模化、農作物のブランド化が有効とされているが、町の現況、対策を問う。 ① 主食用米作付動向について ② 地域計画について ③ スマート農業の推進について ④ 農業支援センター、地域づくり協同組合の今後について	町長 農業委員会会長
		2 観光振興について	第3次あさぎり町総合計画の中で、観光客を呼び込むという共通の目的により町内事業者等とノウハウの共有やネットワーク化、観光振興をけん引する人材の確保に向けた取り組みを行っているとのあるが、現状と今後について問う。	町長

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
6	(7番議員) 橋本 誠	1 町が取り組んでいる事業検証の実施状況について	町が取り組んでいる様々な事業について、しっかり検証されて継続事業として取り組んでいるのか。疑問を持つ事業があるので確認したい。下記の3つの事業について問う。 ① 健幸ポイント事業について ② 商工業振興補助金について ③ 事業承継支援について	町長
		2 気候変動に伴う安全管理対応について	近年、気温の上昇が続いており熱中症対策が重要だと言われている。そこで、町がとっている対応策について問う。 ① 高齢者への配慮について ② 学校教育現場対応について	町長 教育長
7	(1番議員) 小松 英一	1 国民健康保険の保険者変更について	① 県内統一の新たな保険者に変更する内容について問う。 ② 新たな保険料(税)の算定の公平性について問う。 ③ 現行の市町村単位の保険者における1人当たりの医療費の現状と移行後の見通しについて問う。 ④ 熊本都市圏と県北・県南地域との地域間格差の捉え方について問う。	町長
		2 財政運営について	① 財政運営の基本的な考え方について問う。 ② 各種基金の活用の考え方について問う。 ③ 地方債の発行(借入)と公債費の均衡について問う。 ④ 事務事業評価の運用と効果について問う。	町長

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
8	(6番議員) 加賀山 瑞津子	1 地域の暮らしと自然環境を守る観点からの有害物質への備えについて	本町の暮らしは農業や水環境と深く関わっており、地域の自然と共生する環境保全が重要である。近年注目されるP F A S（有機フッ素化合物）は分解されにくく「永遠の化学物質」とも呼ばれており、排水や焼却処理を経ても環境中に残留する可能性が指摘されている。特に水田や用水路、住宅地が隣接する環境が想定される場合には、わずかな物質でも注意深く扱う必要がある。 今後の開発や整備を見据えて、町としてこうした環境リスクにどう備えていくのか、また生活環境や農業への影響を未然に防ぐための体制整備について問う。 ① P F A Sをはじめとする新たな有害物質に関する町の基本的認識について ② 水・土壌などの地域資源のモニタリング体制について ③ 生活や農業と密接に関わる場所での環境影響の未然把握について	町長
		2 「命」を守る防災力と、若い世代が地域に関わるきっかけづくりについて	災害が頻発する中で、町民の命と暮らしを守るための防災力の強化がより一層求められている。現状では自主防災組織等の担い手が高齢化してきており、将来を見据えた若い世代の参加が必要である。消防団をはじめとした若者の関わりもある一方で、より多様な世代が参加できる仕組みづくりが課題と考える。体験型の防災イベントやSNS等による発信など、若い世代が参加しやすい取り組みについて町のサポートや考えを問う。 ① 一緒につくる体験型の防災イベントについて ・親子で防災キャンプ ・ドローン×防災体験 ・中高生による避難所運営訓練 ② 若者の得意分野を活かしたSNS発信について ・I n s t a g r a m（インスタグラム） 「高校生防災部」などによる防災豆知識や町の避難所紹介などの発信 ・Y o u T u b e（ユーチューブ） 「非常食でクッキング」など若者の視点での防災チャレンジ企画や動画制作を通じて学びを深める。 ・T i k T o k（ティックトック） 「3秒で出来る防災豆知識」などの投稿で流行と防災を組み合わせた普及活動 ・L I N Eオープンチャット 地域の若者や保護者同士が繋がる、防災やイベントの情報の交換の場 など。	町長 教育長

令和7年度 あさぎり町議会 第1回会議(6月定例日) 一般質問通告書

質問順	質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
9	(12番議員) 溝口 峰男	1 消防団の在り方を検討するためのアンケート調査実施について	消防団なくして住民の安心安全は守れないが、現役団員も年々減少し令和7年度は昨年より13名減少し458名となっている。団員のなり手不足はますます深刻化していくものと想像できるが、地域にとって無くてはならない組織である。その為にも団員確保がしやすい環境づくりをしていくのは、私たちの責務であると考えます。 消防団の活動は入退団式・夜警・出初式・操法大会に災害対応や火事・行方不明者捜索・危険箇所調査・訓練等々、年々出動回数も多くなっている。それゆえに新入団員確保は難しくなっている一つの要因ではないかと思う。 また、その活動に見合う対価（出動手当・費用弁償）が、総務省消防庁「非常勤消防団員の報酬等の基準」においての標準額以下であり万全とは言えない状況でもある。 これからの10年後20年後の消防団の行く末を考えると、今、消防団の在り方を検討し思い切った改善策を実施するべき時ではないかと考える。 入退団式や操法大会、夜警等の在り方について、消防団員からも見直しの声を聴く。 団員の声を聴いて魅力と誇りが持てる消防団となるように団員の生の声を聴くためのアンケート調査の実施ができないか問う。	町長
		2 永里線（上南）の両側家屋の床下浸水抜本的対策について	2020年7月以降でも集中豪雨や台風による被害が、町内の至る所で発生し毎年、この時期が来るのを苦痛に感じておられる方は多い。特に被害にあわれた方にとっては、二度と同じ目にあわないように対策を講じてほしいと願っておられる。 町も関係機関と連携し対策を講じてはいるが、いまだ手つかずのところもある。 その一つが、永里線の両側家屋の床下浸水対策である。上部からの雨水等が永里線に集中し両側の排水溝が機能しなくなることから発生する床下浸水である。 早急に対策を講じ地域住民の不安を払拭するべきではないか問う。	町長
		3 健康寿命日本一を目指し、がん予防のための健診率向上と保険指導強化について	日本人のがんの部位罹患率では、男女とも第2位が大腸がん、第3位は肺がん。 がん死亡数は男性1位肺がん・2位大腸がん・3位胃がん・4位すい臓がん・5位肝臓がん。女性1位大腸がん・2位肺がん・3位すい臓がん・4位乳がん・5位胃がん（2022年がん情報サービス最新がん統計） あさぎり町においても、がん検診率向上に向けた取り組みが実施されているが、更なる受診率向上のための方策並びに健診後の保健指導強化について問う。	町長
		4 SDGs 12、食品ロス削減の取り組みについて	「球磨焼酎は、ガラとチョコで盃を交わしながら飲み、球磨拳を楽しみ、食べ物は「ごちそうさん」の感謝の心と「もったいない」の精神で、胃袋に消費することを推進する条例」が、平成26年3月17日議会で可決制定された。 コロナ禍以降、生活様式も変化しているが、食品ロス削減はいつの時代になっても取り組んでいかねばならない問題であると考えます。 町の取り組みと住民への「3010運動」の啓発について問う。	町長 教育長